

# 中世の職人・近世の職人

## - 「職人歌合絵巻」「職人風俗絵巻」を読む -

昭和学院中学校高等学校 神山 知徳

### 1. 実施学年及び教科・領域

高等学校第3学年地歴科日本史演習（学校特設科目、3単位、文系生徒のうち希望者が履修、2クラス、5名と23名）

### 2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

#### (1) 単元名

「蒙古襲来と幕府の衰退」（鎌倉時代）、「幕府の衰退と庶民の台頭」（室町時代）、「幕藩社会の構造」（江戸時代）

#### (2) ねらい

##### ①学習指導要領との関連

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』（平成22年6月）では「第4 日本史B」「2 内容」「(2) 中世の日本と東アジア」のうち「ウ中世社会の展開 日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察させる。」、「(3) 近世の日本と世界」のうち「ウ産業経済の発展と幕藩体制の変容 幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。」に関連して、中世・近世の職人の有様を、国立歴史民俗博物館（以下「歴博」）が所蔵する絵巻資料を教材に考察させる。

##### ②単元の目標

- 絵巻資料に描かれた画像と歌に関心を持つ。（関心・意欲・態度）
- 絵巻資料に描かれた画像と歌についてその疑問点を見つけ出し、批評し合い、仮説を出すことができる。（思考・判断・表現）
- 絵巻資料について読み解きを行い、職人像についてまとめることができる。（資料活用の技能）
- 絵巻資料から読み解いた内容を、中世から近世にかけての職人像として理解できる。（知識・理解）

#### (3) 博物館との関連

①活用方法 「非来館型活用」で実施

##### ②活用資料

「職人歌合絵巻（高松宮家本）」「職人風俗絵巻」（ともに歴博ウェブギャラリー）、  
「職人歌合絵巻（高松宮家本）」の複製資料（自作）

#### (4) 指導観

本授業は、本校特設科目日本史演習（高3、3単位）の中で行われた。本来は日本史B（高2・高3の分割履修、計5単位）の中で行う予定で、鎌倉時代が終わる高2第3学期に実施するはずであった。ところが思うように教材作成が進まず、予定は大幅にずれ込み、高3第1学期の6月後半での実践になった。また日本史演習は、文系生徒のうち主に日本史を受験科目とする生徒が受講しており、平素は問題演習やテーマ史学習などを行っている。その意味で学習意欲という点では、通常日本史Bの授業よりも関心をもって臨む生徒が多い。しかしあくまでも受験のための暗記主体の日本史学習、一斉授業という受け身な学習に慣れた生徒ばかりで、実物教材を使った授業や討論授業、主題学習をあまり経験していない。

ところで本実践で教材として主に使用する絵巻は、歴博が所蔵する「職人歌合絵巻」（高松宮家本）で、建保2年（1214）の秋、京都の東北院で念仏会の際に行ったという趣向の、「東北院職人歌合」と呼ばれる種類のものである。「職人歌合」とは、職人たちが左右に分かれて競う歌合である。そもそも職人とはおよそ風流とはかけ離れた存在で、その詠題の多くが「月」と「恋」である。鍛冶や番匠などの職人の歌といっても、もちろんその道々に励む職人達が詠吟したものではない。実際の詠者は上流貴族であり、彼らが職人に成り代わって詠んだ歌である。とはいえ「職人歌合」の詠歌には、中世職人の生活や心情が織り込まれており、この時代に生きた民衆の社会と歴史を現代に伝えてくれる貴重な文学作品といえる。

今回取り扱った高松宮家本は室町時代後期の写本（28.7 cm × 675 cm）で、世襲親王家しんのうけのありすがわのみやけ有栖川宮家の蔵書の一つとして大正時代に高松宮家に受け継がれ、文化庁を経て同館に移管された。その絵巻に登場する職人とその組み合わせは、「医師・陰陽師くすし おんみょうじ」、「鍛冶・番匠ばんしょう とぎ いもじ」、「刀磨・鋳物師かんなぎ」、「巫・博打ばくち」、「海人（塩焼）・賈人（行商人）あま こ」という5番20首、歌の判者は「経師きょうじ」である。判者の歌を含め、都合21首となる。

ところでこの「職人歌合絵巻」（東北院職人歌合）の作者は、現在のところ後鳥羽上皇と慈円ではないかと推測されている。この歌会が成立したとされる建保2年（1214）は、承久の乱が起こる数年前で、変後上皇は隠岐へ流され、延応2年（1239）に没した。20年近くにわたる離島生活の後、恨みを抱いて没したため、人々はその霊が怨霊と化して世に災いをもたらすものと恐れた。この後に作成される3種の「職人歌合」もまた世情混乱の時期に制作されており、後鳥羽上皇鎮魂のために制作されたと考えられている。そのため判者には職人たちに仏縁を結ばせるために宗教者が充てられており、「職人歌合絵巻」では「経師」に扮した僧侶にその役割が与えられている。

「職人歌合絵巻」には現在鎌倉時代に詠作されたものが2種、室町時代に制作されたものが2種の合計4種5作品が知られているが、いずれも原本は存在しない。今回教材とする「高松宮家本」はそのうちの最も古いもので、その詳細な画像は歴博のウェブ上でも自由に閲覧できる。その意味では誰でも簡単にアプローチできる素材ではあるが、画像に付された歌はくずし字で書かれており、その解釈も困難で、いざ教材として活用しようとするにはかなりハードルが高い。国文学の世界では比較的有名な絵巻ではあるにもかかわらず、21首ある歌のうち、管見の限りではその解釈はわずか3首しか見当たらない。しかし中世の職人像を掴ませるには最良の画像資料であることには相違ない。

また標題にもある「職人風俗絵巻」もまた、歴博が所蔵する江戸時代中期の絵巻（31.7 cm × 750 cm）で、洛中洛外図屏風の市中の一部を切り取ったような、道に面した町屋にいろいろな職人を配した巻物である。描かれた職人は、ひとつずつの店として描かれており、弓屋、くみや（組紐屋）など 24 種類の職人名が記されている。この他にも、路上に多くの人物が描かれており、名前は記されていないが、鉦叩かねたたき、獅子舞、琵琶法師などの生業や芸能が見られる。

「職人歌合絵巻」には 11 種の職人の画像とそこに添えられた 21 首の歌がある。同様に「職人風俗絵巻」には、彩色豊かに描かれた職人やその他の生業者、芸能民の画像がある。それらがともに中世・近世社会に生きた人々の姿を切り取った教材として、魅力的であることは相違ない。そこで本稿では、この絵巻の教材化・授業実践の試みを紹介し、職人の画像資料とその歌の読み解きから、より豊かな歴史像が描けることを明らかにしたい。

### 3. 指導計画（2.5時間扱い）

#### （1）「職人歌合」って何？」（0.5時間）

段階	時間	○学習活動      ●学習内容	□指導上の留意点    ■評価の観点
導入	10分	○「職人歌合絵巻（高松宮家本）」を手 に取る。 ●絵巻は右から左へと読むこと、6種 の職人に関わる画像と 21 首の歌が書か れていること。	□「職人歌合絵巻」の複製資料は絵 巻の形にして生徒に見せる。 ■絵巻資料の形態、描かれた画像資 料について配慮すべき点を理解し、 実践できるか。〈複製資料、関〉
展開	15分	○「職人歌合」について」を読む。 ○「職人歌合」とは何か、分かったこ とをグループワークで共有する。 ●実際には職人達の歌合はありえない ことで、架空の出来事であることなど。	□自作の解説資料「職人歌合」につ いて」（ワークシートNo.1）を配布し、 じっくりと読ませる。電子黒板で、 自由に見られるようにしておく。 ■「職人歌合」について」の内容を 理解し、指摘した内容をグループワ ークで共有できるか。〈ワークシート、 思〉
まとめ	5分	○何の画像と歌に関心を持ったか考える。 ○クラス内を5班に分ける。	□「医師・陰陽師」「鍛冶・番匠」「刀 磨・鋳物師」「巫・博打」「海人・賈 人」の5組）と「経師」の画像資料 をプリントした資料を掲示しておく。 ■次回の授業で何を選びたいか考え、 関心を持てるか。〈関〉

(2) 「職人歌合」を読む(1時間)

段階	時間	○学習活動      ●学習内容	□指導上の留意点    ■評価の観点
導入 5分	5分	<p>○授業の進め方について説明を受ける。</p> <p>○5班に分かれて、「医師・陰陽師」「鍛冶・番匠」「刀磨・鋳物師」「巫・博打」「海人・賈人」のいずれを選ぶか決める。</p>	<p>□「医師・陰陽師」「鍛冶・番匠」「刀磨・鋳物師」「巫・博打」「海人・賈人」の5組と「経師」の画像資料をプリントした資料を黒板に掲示し、一斉に各班に選ばせる。</p> <p>□「職人歌合絵巻」の複製資料は絵巻の形にして生徒に見せる。自由に触れるようにする。</p> <p>■絵巻資料の形態、描かれた画像資料についてその構造や理解し、実践できるか。〈複製資料、関〉</p>
展開 40分	10分  20分  10分	<p>○自分の班が選んだ「職人」の画像が、「医師・陰陽師」「鍛冶・番匠」「刀磨・鋳物師」「巫・博打」「海人・賈人」のいずれかか考え、その根拠をまとめる(ワークシートNo.2)。</p> <p>●医師は薬を調合する。陰陽師は祈禱を行うなど。</p> <p>○「歌の大意カード」を読んで、歌(月・恋)とその職人図からわかること、「変だなあ」と思うことを考える。</p> <p>●職人には風流を楽しむ余裕がない。忙しいなど。</p> <p>○各班が選んだ画像から分かったこと、「変だなあ」と思ったことを全体で発表し、他の職人図から分かったことなどをまとめる(ワークシートNo.2)。</p> <p>○そもそもなぜ「医師・陰陽師」「鍛冶・番匠」「刀磨・鋳物師」「巫・博打」「海人・賈人」の組合せなのかを考察する。それぞれの組合せの特徴を掴もうとする。全体を通じて職人とはどのような立場の者であるかを推察する(ワークシートNo.2)。</p>	<p>□ワークシートNo.2を配布する。職人の立ち居振る舞いや使用している道具、技術などに注目して、いずれの職人を指すのかを考えさせる。</p> <p>■描かれた職人像から、具体的な職業名を考察できるか。〈複製資料、関〉</p> <p>□すべての職人と歌について画像とその歌の大意をまとめた「歌の大意カード」(ワークシートNo.3)を配布する。</p> <p>■歌の解釈を通じて、各職人が使っている道具や職人達の身分や置かれた社会的環境を、歌の内容と結びつけることができるか。〈ワークシート、思・技〉</p> <p>□机間指導中から、他の班の事例を教え、情報の共有を図る。</p> <p>□自分たちの班が選んだ職人のイメージが、通常抱いている職人のイメージと合うかどうか、職人の組合せに何らかの共通性がないか、考えさせる。(ワークシートNo.2)。</p> <p>■作品の作成意図を読み取ることが</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>●「医師・陰陽師」、「鍛冶・番匠」、「刀磨・鋳物師」、「巫・博打」、「海人・賈人」の組合せのうち、「鍛冶・番匠」、「刀磨・鋳物師」はともに物作りをする人。そのうち特に「刀磨・鋳物師」は鉄を扱う職人の組合せであること。</li> </ul>	<p>できるか。〈ワークシート、思〉</p> <p><input type="checkbox"/>簡潔にポイントを指摘するよう伝える。</p> <p>■他の班の意見を的確に理解できるか〈ワークシート、関・思・知〉</p>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中世の職人のイメージを持つ。</li> <li>●「職人歌合絵巻」に描かれた職人の組合せの意味。</li> <li>●中世の職人の中には、物作り以外の職人がいる。</li> <li>●中世の職人といわれる人たちは、男性であればみな烏帽子を被っている。</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/>生徒が持っている職人のイメージと「職人歌合絵巻」に描かれた職人のイメージの違いを認識させる。</p> <p><input type="checkbox"/>ワークシートNo.2の回収。</p> <p>■中世の職人の特徴を理解できるか。〈ワークシート、知〉</p>

(3) 「中世～近世の職人」(1時間)

段階	時間	○学習活動      ●学習内容	□指導上の留意点      ■評価の観点
導入 10分	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「職人歌合絵巻」の振り返り。</li> <li>●いずれの職人も男性であればちょんまげをして烏帽子を被っているが、着ている服装で身分差が現れているように思う。</li> <li>●霊的なものを畏れ信仰している。陰陽師などのお祈り系も「職人」など。</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/>前時回収したワークシートNo.2を集計したプリントを事前に配布し、本時の授業の前に紙上討論を済ませておく。</p> <p>■鎌倉時代の職人像をその後の職人像と比較していこうとする意欲が高まるか。〈ワークシート、関〉</p>
展開 30分	10分           20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○室町時代の職人、商人について、教科書や資料集をみて気づいたことを挙げる(ワークシートNo.4)。</li> <li>●女性の商人が活躍し始めた(大原女・桂女)。</li> <li>●貨幣の流通が商人の登場を促した。</li> <li>○江戸時代中期の作品「職人風俗絵巻」から職人の画像を一つ選び、それが何を表したのか、どのようにして何を作っているのかなど具体的に書き出す(ワークシートNo.4)。</li> <li>●弓屋、組屋〔組紐〕、団扇屋、柄巻屋、紅屋、せと物や、琴屋、矢作、傘</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/>ワークシートNo.4を配布して、室町時代の職人や商人について、まとめさせる。</p> <p>■室町時代の社会経済史についての既習事項が理解できるか。〈ワークシート、知〉</p> <p><input type="checkbox"/>ワークシートNo.4に「職人風俗絵巻」で選んだ職人図についてまとめさせる。生徒人数分の画像のコピーを配布する。</p> <p><input type="checkbox"/>歴博ウェブギャラリーの画像を電子黒板で投影し、適宜解説する。</p> <p>■職人の所作や身なり、使っている</p>

		貼り、鏡屋、まき物や、沓屋、素麺屋、檜屋、烏帽子、檜物屋、縫い物屋、筆屋、珠数屋、扇屋、鞆屋、鞆屋、太刀、煙草屋などの24種	道具、くずし字で書かれた見出しなどに注目して、江戸時代の職人の姿について説明できるか。〈ワークシート、技〉
まとめ	10分	<p>○中世の職人と、江戸時代の職人を比べる（ワークシートNo.4）。</p> <p>●江戸時代は烏帽子を被っている人がいない。</p> <p>●業種が多彩。</p> <p>●女性も積極的に働いている。</p> <p>●あくまでも職人は「作る人」。鎌倉時代とはかなり違う、など。</p>	<p>□ワークシートNo.4に、近世の職人が中世の職人とどう違うか、まとめさせる。</p> <p>□ワークシートNo.4は次の授業で回収し、その結果をまとめて紙上討論の材料とする。授業の冒頭で意見の共有を図る。</p> <p>■近世の職人の特徴が理解できるか。〈ワークシート、知〉</p>

#### 4. 実践の概要

##### (1) 実施学年及び教科・領域、基本方針

本実践は通常の日本史Bの授業（高2・高3の分割履修、合計5単位）ではなく、主題学習、問題演習を主体にした高3文系の日本史演習（学校特設科目）の時間中（6月下旬）に行った。また本時はあくまでも日本史の授業であるため、歌の解釈にこだわるよりは詠まれた歌と絵（職人の立ち居振る舞いや身なり、諸道具、技術）に着目して授業を進めることに主眼を置くことにした。授業の展開は次の（2）から（4）の通り。

##### (2) 「職人歌合」って何？（0.5時間）

最初の授業では、全体の絵巻の雰囲気分かるように、右の写真のように卷子本にした複製資料（「職人歌合絵巻（高松宮家本）」）を提示した。資料の概要については、「「職人歌合」について」（ワークシートNo.1）を読ませ、理解させた。生徒に選ばせる職人図は、諸職の図2枚ごと（「医師・陰陽師」「鍛冶・番匠」「刀磨・<sup>かななぎ</sup>鑄物師」「巫・博打」「海人・賈人」の5組）ないしは1枚（「経師」）にしておいた。また関心を高めるために歴博ウェブギャラリーにアクセスして、電子黒板に投影しておいた。



ワークシートNo.1をグループワーク（班の規模は適宜。本時の場合左右前後の4名とした）で読み合わせ、知ったこと、気づいたことなどの内容をまとめさせた。生徒からは次のような点が指摘された。

- ・絵巻は右から左へと読むこと。しかもとても長い（7 m近くもある！）。
- ・実際には「職人」達の歌合はありえないことで、架空の出来事であること。
- ・「職人歌合」は鎌倉時代・室町時代に作られ、原本は存在せず、写本のみが伝わっていること。
- ・「東北院歌合」には、承久の乱の後流刑の地で無念の死を遂げた後鳥羽上皇の霊を鎮める意味があること。
- ・「東北院歌合」の写本の一つが親王家の一つである有栖川宮家で長く保存され、それが高松宮家を経て文化庁、国立歴史民俗博物館に伝わっていること。

そして授業の最後にクラスを5班に分け、次の授業に備えた。なお5班編成がとりにくいという場合には、適宜数を増やしても差し支えない。その際は諸職の図2枚セットを班の数だけ用意すれば良いだけのことで、どの職人図を増やすかは授業者の判断に任せる。

### （3）「職人歌合」を読む（1時間）

クラスを5班に分け、2枚一組にした諸職人の絵とくずし字で書かれた歌を載せたプリントを選ばせた（5名のクラスの場合は、一人につき2枚一組を選ばせた）。例えば下の写真は第1番の歌合「医師・陰陽師」の画像である。ここに職種名は書かれていない。画像とくずし字が書かれているだけで、当然くずし字が正確に読めるはずがない。こうした組合せを5組掲げ、黒板に「医師・陰陽師」「鍛冶・番匠」「刀磨・鋳物師」「巫・博打」



医師



陰陽師

「海人・賈人」と板書し、各班が選んだ画像がどれを示したものかを、その根拠を含めてまとめさせた。当然くずし字で書かれた歌の内容が分かるはずもないため、生徒は描かれた職人図だけで判断し、ワークシートNo.2に記入させた。生徒が職人の身なりや所作、道具などから職種名を判断した根拠は次のようになった。

- ・ 医師は薬を調合する。陰陽師は祈禱を行う。
- ・ 鍛冶は道具を使って刀を鍛える。番匠は大工道具を使って家を建てる。
- ・ 刀磨は刀を研ぐ。鋳物師は金属を火で溶かす。
- ・ 巫は首に数珠をかけて「神降ろし」を行う。博打はサイコロを投げてギャンブルをする。
- ・ 海人は海の近くで塩を焼いている。賈人は商人で大きな籠を持って売り歩いている。

次にすべての職人図に付された歌の解釈を掲載した「歌の大意カード」（ワークシート No. 3）を配布し、自分の班が選んだ職人図とその歌の解釈を理解させ、分かったこと、「変だなあ」と思ったことなどをまとめさせた（ワークシート No. 2）。歌はそれぞれ月と恋をテーマにしたもので、歌合の組になった職人同士で優劣を競うというものである。ただし本実践では歌の解釈に止め、優劣を判じた文言については触れない。そこで刀磨の「恋」の歌を事例に紹介したい（前掲ワークシート No. 3）。この場合、「きみゆへに／きもゝこゝろもときはてゝ／わか身ひとつぞ／きえなかりける」とある。「きみゆへに…」の歌の大意は「君だけを思う心も磨ききって、我が身ひとつだけが消えてなくなってしまうよ」で、「ときはてゝ」の「とき」に「刀磨」がかけられている。それは鋳物師が詠んだとされる「恋」の歌と競い合う形になっている。ただこの歌を含めて 18 首の解釈は、今回試案として提示したものに過ぎない。その意味では、今回は教材としての可能性を探るために提示した叩き台と考えてもらいたい。本稿をきっかけに「職人歌合絵巻」に関心を持ってもらい、推敲を重ねていってもらえたらと思う。

このように歌の解釈を示すことで、歌の解釈を通じて、各職人が使っている道具や職人達の身分、彼らが置かれた社会的環境を、歌の内容と結びつけようとした。そして各班で選んだ職人図とその歌（月・恋）から分かること、「変だなあ」と思うことを班内で共有させた。その結果は次の通りである。

- ・ 職人には風流を楽しむ余裕がない。忙しい。低い身分に置かれている。
- ・ 職人たちも男性であれば烏帽子を被りちょんまげをしている。
- ・ 普段使っている道具と歌の内容を上手にかけている。

さらに机間指導中から、他の班の事例を教え、情報の共有を図る中で、自分たちの班が選んだ職人のイメージが通常抱いている職人のイメージと合うかどうか、職人の組合せに何らかの共通性がないか、考えさせた。（ワークシート No. 2）。そして各班で分かったことを発表させて、なぜ「医師・陰陽師」「鍛冶・番匠」「刀磨・鋳物師」「巫・博打」「海人・賈人」の組合せなのかを考えさせた。また全体を通じて職人とはどのような立場の者なのかを推察しようとした。その結果は次の通りである。

- ・「医師・陰陽師」、「鍛冶・番匠」、「刀磨・鋳物師」、「巫・博打」、「海人・賈人」の組合せのうち、「鍛冶・番匠」、「刀磨・鋳物師」はともに物作りをする人。そのうち特に「刀磨・鋳物師」は鉄を扱う職人の組合せ。
- ・「医師・陰陽師」はともに病気を治す職業の人で、これらの職人の中では一番裕福そうな服装をしている。
- ・「海人・賈人」は人ともに、自分の職業に満足して居らず、もっと風流的な心の余裕をもちたいと嘆いている。
- ・「巫・博打」はともに神様に祈る。「博打」はフンドシだけでほぼ裸。博打が職人なのはちょっと不思議。

これらの記述から、「職人歌合絵巻」に描かれた職人の組合せには何らかの意味がありそうなこと、鎌倉時代の職人には、「医師・陰陽師」「巫・博打」「巫・博打」などのように、物作りには直接関わらない「職人」も含まれることなどが分かった。また職人が、日々の生活に追われ、貴族のような風流心を持ちにくいものと考えられていることも分かった。そして記入が済んだワークシートNo.2を回収してその結果をまとめ、後日の授業冒頭での紙上討論の材料とした。

#### (4)「中世～近世の職人」(1時間)

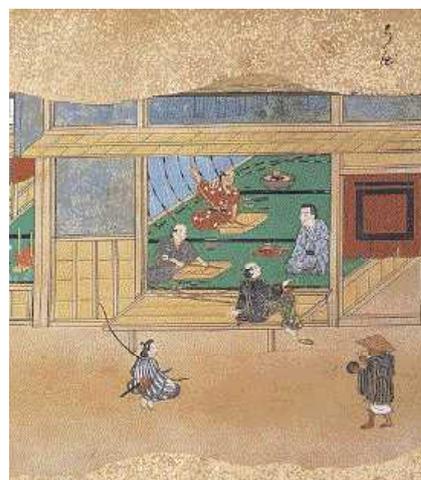
江戸時代の社会経済史の学習を終えたところで、まとめの授業「中世～近世の「職人」」を行った。最初の10分間の導入で、「職人歌合絵巻」の振り返りを行った。そこでは以下の点が確認された(ワークシートNo.4)。

- ・いずれの職人も男性であればちょんまげをして烏帽子を被っているが、着ている服装で身分差が現れているように思う。
- ・烏帽子を被っている人多数→職人は女ではなく、男になるもの？
- ・職種がそれぞれ専門化している。今と違って、医師だったり巫だったり、陰陽師だったり、専門的な技術を持った人々を「職人」と呼んでいる？
- ・「職人」とは、何か一つを専門として生活をしている人のこと。
- ・霊的なものを畏れ信仰している。陰陽師などのお祈り系も「職人」。

さらに教科書や資料集を使って、室町時代の職人、商人について気がついたことを指摘させた(およそ10分間)。同様に次の点が指摘された。

- ・女性の商人が活躍し始めた（大原女・桂女）。
- ・貨幣の流通が商人の登場を促した。
- ・今とは違う職業が多い。
- ・見世棚のような常設店が増えたのは、人口が増え、買う人が増えたため？

そして本時のメイン、江戸時代中期の作品「職人風俗絵巻」の読み解きを行った（およそ 20 分間）。ここでは弓屋、組屋〔組紐屋〕、団扇屋、柄巻屋、紅屋、せと物や、琴屋、矢作、傘貼り、鏡屋、まき物や、沓屋、素麺屋、檜屋、烏帽子、檜物屋、縫い物屋、筆屋、珠数屋、扇屋、鞆屋、靱屋、太刀、煙草屋などの 24 種の画像を歴博ホームページから画面をキャプチャーして印刷したものを各自に配布し、それが何を表したのか、どのようにして何を作っているのかなど具体的に書き出させた。右の写真に示したように、職人の画像は極めて鮮明で、非常に分かりやすい。ただ職



弓屋

種名だけはくずし字で書かれており、読める生徒はほとんどいない。そこで画像から判断し、内容を推測した上で、机間指導の際にヒントを与えたり、適宜電子黒板で説明を加えたりした。

そして最後の 10 分間で、本時のまとめに入った。ここでは江戸時代の職人の特徴について、鎌倉時代の職人と比べて何が分かったか、どのようなことに気づいたかをまとめさせた。

- ・江戸時代は烏帽子を被っている人がいない。
- ・業種が多彩。
- ・女性も積極的に働いている。
- ・職人の使っている工具が発達している。多種多彩。
- ・あくまでも職人は「作る人」。鎌倉時代とはかなり違う。など

以上の通り、本時の実践を通じて、生徒は江戸時代の職人が現在の職人のイメージに近いもので、物作りをする人が職人となっていることに気づいた。それに対し鎌倉時代の場合は、いわゆる非農業民以外の専門職に就いている者を「職人」と呼んでいるのではないかと指摘している。また鎌倉時代は成人男性であればいずれも烏帽子を被っているが、江戸時代は貴族や武士など烏帽子を被る者は限られており、職人というものの地位が鎌倉時代よりも低くなっているのではないかと見通しも立てている。

## 5. 成果と課題

### (1) 成果

・ICT環境の整備が急速に進んだことで、これまで頻繁に活用されてきた「洛中洛外図屏風」と同様に、「職人歌合絵巻（高松宮家本）」と「職人風俗絵巻」の詳細な画像も、歴博ウェブギャラリーの提示という形で、気軽に授業で活用できるようになった。これにより画面をキャプチャーして印刷しても、十分に教材として利用できるほど詳細な画像を提示できるようになった。

・歴博ウェブギャラリーには教材として魅力のある素材が多数あるが、「職人歌合絵巻」のようにくずし字の解読、歌の解釈など、そのままでは教材化するにはハードルの高い素材も多い。本実践で使用した「職人歌合絵巻（高松宮家本）」の場合は全文が末尾の『新修日本絵巻物全集 第28巻』に翻刻されていたが、歌の解釈については管見の限りで3首のみ『職人歌合 中世の職人群像』『職人歌合』に掲載されていただけであった。そこで今回筆者勤務校の国語科に協力を仰ぎ、残りの歌の解釈を行った。これにより、中世の職人の姿を学ぶ教材として活用することが可能になった。

### (2) 課題

・今回歴博から「職人歌合絵巻（高松宮家本）」の画像データを拝借し、試みに卷子本形式で複製資料を作成してみたところ、生徒の反応がかなりよかった。絵巻そのものの構造も理解が容易だった。館蔵資料の利用促進という観点からも、「職人歌合絵巻（高松宮家本）」「職人風俗絵巻」などについても、耐久性のある素材での貸出用教材の製作が望ましい。

#### 参考文献および参考サイト

- ・ [https://www.rekihaku.ac.jp/education\\_research/gallery/webgallery/webgallery\\_fo.html#d](https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/webgallery_fo.html#d)
- ・ 岩崎佳枝『職人歌合 中世の職人群像』平凡社選書、1987年。
- ・ 網野善彦『職人歌合』 平凡社、2012年。
- ・ 森暢『新修日本絵巻物全集 第28巻』角川書店（昭和54年）
- ・ 拙稿「中世の職人～「職人歌合絵巻」を読む～」加藤公明他編著『考える歴史の授業（仮称）』地歴社、2019年3月刊行（予定）

「職人歌合」とは

神山

日本文学の伝統の中に、「歌合」という文学的遊戯があります。これは左右二方に分かれた詠者（詠み手）が同じ題で和歌を詠み、二首一番の取り組みを作り、その優劣を競うものです。勝負の判定は歌合参加者全員による衆議判もありますが、一般的には特定の人物が判者となっており、下すことが多いといわれます。

現存最古の歌合は仁和年間（885～889）で、歌合の源流は9世紀後半です。鎌倉期にはさらに勝負に重点が置かれますが、やがて「東北院職人歌合」をはじめとする異色の歌合、「職人歌合」が登場することになります。

「職人歌合」とは職人たちが左右に分かれて競う歌合です。そもそも職人は、およそ風流とはかけ離れた存在です。その詠題の多くが「月」と「恋」で、「花」と「述懐」とするものもあります。鍛冶や番匠の歌といっても、もちろんその道々に励む職人達が詠吟したものではありません。実際の詠者は上流貴族であり、彼らが「職人」に成り代わって詠んだ歌なのです。とはいえ「職人歌合」の詠歌には、中世「職人」の生活や心情が織り込まれており、この時代に生きた民衆の社会と歴史を現代に伝えてくれる貴重な文学作品といえます。

ところで、ここでいう「職人」とは、現在でいう職人よりもずっと広い職種を指しています。手工業者や工芸を営む工人に加えて賈人（商人）はもちろん、生産や流通に直接関わらない芸能民や宗教学人も含まれています。つまり「職人歌合」は、農業以外の生業を営む人々のかんりの部分とその姿をあらわす舞台なのです。それはそのまま中世民衆世界の縮図といえます。

中世の「職人歌合」には、鎌倉時代に詠作されたものが2種、室町時代に制作されたものが2種の合計4種が知られています。ただしいずれも原本は現存しません。鎌倉時代の2種とは「東北院職人歌合」と「鶴岡放生会職人歌合」で、室町時代のもは「三十二番職人歌合」「七十一番職人歌合」です。今回授業で使用する「東北院職人歌合」は、建保2年（1214）の秋、京都の東北院で念仏会の際に行なったという趣向のもです。その詠者は「医師・陰陽師」「鍛冶・番匠」「刃磨・鍊物師」「巫・博打」「海人・賈人」の十種五番の歌合で、判者は経師となっています。歌題は「月」と「恋」です。なおこの五番の歌

合は、後に増補・改訂され、「塗師・繪物師」などが加えられ、十二番の歌合となりました。ところで「東北院職人歌合」の作者は、現在のところ後鳥羽上皇と慈円ではないかと推測されています。この歌合が成立したとされる建保2年（1214）は、承久の乱が起こる数年前で、変後上皇は隠岐へ流され、延応2年（1239）に没しました。20年近くにおたる離島生活の後、恨みを抱いて没したので、人々はその霊が怨霊と化して世に災いをもたらすものと恐れられたようです。この後に作成される3種の「職人歌合」もまた世情混乱の時期に制作されており、後鳥羽上皇鎮魂のために制作されたと考えられています。そのため判者には「職人」たちに仏縁を結ばせるために宗教者が充てられており、「東北院職人歌合」では「経師」に扮した僧侶にその役割が与えられています。

今回授業で使用する画像は、現在確認されている2種の「東北院職人歌合」の写本のうち、国立歴史民俗博物館所蔵の「高松宮家本」といわれるものです。それは世襲親王家の一つである有栖川宮家の蔵書を大正時代に高松宮家が受け継ぎ、和歌関係などを多く含むその資料群が、文化庁を経て同館に移管されました。

今回教材を作成するに際して、どのような形に加工するのが良いかずっと腐心しました。21首の和歌の解釈についても何度も見直しを行いました。まだ満足な出来ではありません。今回の実践では、和歌はもちろんのこと、絵巻に描かれた「職人」の立ち居振る舞いや身なり、諸道具、技術と併せて味わってもらい、中世民衆の生きざまを感じてもらいたいと思います。

【参考文献】

- ・岩崎佳枝『職人歌合 中世の職人群像』平凡社選書、1987年
- ・網野善彦『職人歌合』平凡社、2012年
- ・森嶋『新修日本絵巻物全集 第28巻』角川書店、昭和54年
- ・統群書類従完成会『群書類従』第28巻、昭和8年
- ・国立歴史民俗博物館webギャラリー（[https://www.rekihaku.ac.jp/education\\_research/gallery/webgallery/webgallery\\_fo.html#d](https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/webgallery_fo.html#d)）

以上

ワークシートNo. 2 「職人歌合絵巻」を読む

「職人歌合絵巻」を読む

1 自分たちの班の職人図はどれに当たると考えられるか。その根拠は？

職人の種類 \_\_\_\_\_

その根拠 \_\_\_\_\_

2 歌とその職人図からのわかること、変だなと思うこと

歌（月） \_\_\_\_\_

歌（恋） \_\_\_\_\_

3 他の職人図から分かったこと、その他 \_\_\_\_\_

3年 組 番 氏名

ワークシートNo. 3 歌の大意カード

一番  
左  
むら雲のかゝれる月の裏には  
よわのあらしぞ成へかりける  
きみゆへにころとつけるやせ病  
あはぬつきめに灸治してみん



右  
再押やたかまの原にすむ月に  
あまの八重雲かゝらすもがな  
おもひあまり君には鬼気の祭して  
しるしもみえぬ御神楽ぞうき



〔大意〕

左 せつかくの名月に懸かっている一群の雲を吹き飛ばすには、夜の嵐が一番の薬になるであろう。

君のことでこんなにも寝せてしまう病にかかってしまった。あなたに逢えない月の合間に灸を据えてみよう。

右 重ねてお願いしたい、高天原に住む（澄む）月に、幾重にも連なるような雲がかからなければいいのになあ。

あなたへの恋しさに堪えきれなくなり、鬼気祭（陰陽師の行う神事の一つ）を行ってみたいけれど、はっきりとした効験（効果）が見えない御神楽が辛いよ。

同前

三番  
左  
我やとの砥水にやとる月かけの  
あやしやかにさびてみゆらん  
きみゆへにきもころもとききはて  
わか身ひとつぞさえないかりける



右  
つきかけをも、度みかくあらし哉  
これやますみの鏡なるらむ  
とふ人を待つとせしまにまがねふく  
きびの中山跡たへにけり



〔大意〕

左 私の宿で砥石を使って刀を磨いて出た水に月影が映っているよ。不思議にもどうしてこれほど錆びて見えるのだろうか。

君だけを思う心も磨ききって、我が身ひとつだけが消えてなくなってしまふよ。

右 これが月影を百度も磨くほどの激しい嵐なのか。月が真澄の鏡（くもりなくよく澄んでいる鏡）のようになるのだろう。

今か今かとあの人が尋ねてくるのを待っている間に鉄を精錬してしまったよ。鉄の聖地である吉備の中山にはそのような跡はすっかりなくなってしまったのに。

二番  
左  
月にねぬやとや人のおもふらん  
いつもたえせぬあいつちの音  
あふことハヤがてたかねのはかみ草  
いさゝは人をおもひきりてむ



右  
すみかねのなをりをただす身なれとも  
かたかく月にかうはりそなき  
あはむとハ下がためせし君なれと  
また半作の恋をする哉



〔大意〕

左 月があまりに美しいので、寝ないで月を愛でる宿と人は思うだろうが、実は昼も夜も相聞の音が絶えない宿であって、夜を徹して仕事をせねばならない鍛冶の我が身であることよ。

あなたと逢うことは高嶺の初見草のような身分不相応のもの。さあそれならば、鑿（金属や岩石を加工するための工具の一種）を使ってあなたへの思いを断ち切っていこう。

右 墨と曲尺を使って建物の不具合を直す身ではあるけれども傾く月を倒れないようにする勾張（つっかえ棒）は持ち合わせていない。そんな風流に縁のない我が身を恨みます。

あなたに逢おうとして色々手を尽くしたが、また建物がまだ出来上がっていないような中途半端な恋をするのか。

同前

五番  
左  
月をみてさても過へき身成せは  
あきはもしほの煙たてじを  
逢事ハかたくしなみのうき枕  
うらみぬ袖はぬるゝものかは



四番  
左  
ひくしめのうちへな入そ夜はの月  
さはかり雲のころゆかぬに  
きミとわれ口をよせてそねまほしき  
つゝみもはらもちたゝきつゝ



右  
とまよもる家路の月を捨て置きて  
むかしもかくや世をわたりけむ  
いのちにも身にもかへんとおもへども  
あふことをうる人のなきかな



右  
おぼつかなたれにうちいれて月影の  
くもの衣をぬぎていづらん  
我恋はかたをくれなるすくろくの  
われても人にあはむとそおもふ



〔大意〕

左 月をみて、このように過ごしてきた身を出世させることができれば、秋には湯塩を焼く煙を立てることもないだろうに。

あなたに逢うことは難しくなり流れ落ちる涙で枕が浮いてしまします。あなたを恨（浦）まないで袖は濡れるでしょうか。そうではありません。

右 苦で屋根を葺いたような粗末な家に明かりが漏れている。そのような家を捨て置いて商いに出る。私たち商人はこれを風流として楽しむ余裕もない。昔もこのように世を渡り抜いたのだろうか。

この身を命に代えて（買えて）でも思っても、逢うことが出来る（得る＝売る）人はいないなあ。

〔大意〕

左 夜半の月よ、標（聖域）の中に入れてくれるな。そのくらい雲が懸かってくれないと、満足できないままになってしまうよ。

君と口を寄せて寝てみたい。鼓も腹も叩きながら。

右 どの目が出るのか不確実な賽（サイコロ）の賭けたために、月影のような雲の衣（天人の衣）を脱いで、丸裸になって行く羽目になったのだろうか。

私の恋は片方が遅れをとった双六の目のようなもので、たとえ今は別れてしまっても、後には逢おうと思っています。

同前



判者  
経師  
すいまさらになにさやけしとおもふらむ  
すりかた本なる秋の夜の月

〔大意〕

今となっては何を清いと思うのだろうか。  
刷りがたいほど美しい秋の夜の月よ。

※ 経師… 書画の幅や屏風・ふすまなどを表装する職人または経文を書き写すことを業とした職人。

ワークシート No. 4 中世の職人・近世の職人

中世の職人・近世の職人

- 「職人歌合絵巻」からわかる中世の職人像
- 室町時代の職人、商人について、気がついたことをまとめてみよう
- 江戸時代中期の作品「職人風俗絵巻」から、気になる職人の画像を一つ選び、それが何を表したのか、どのように何を作っているのかなど、具体的に書き出してみよう。教科書の記述（202～212頁）も参考にしてみよう。
- 鎌倉時代の職人と江戸時代の職人を比べて気がつくことを挙げてみよう。

3年 組 番 氏名